



# 現場視察・ヒアリング及び ガイドブックについて

令和6年2月6日（火）



**1**

**現場視察・ヒアリングの御報告**

**2**

**ガイドブックについて**

1

# 現場視察・ヒアリングの御報告

---

福島県福島市

徳島県美馬市

障害者スポーツ文化センター  
横浜ラポール

---

# 1. 福島県福島市



スポーツ庁

## 取組概要

- ✓ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に**バリアフリーニーズを掘り起し、官民一体となったハード・ソフト両面のバリアフリーを実践**することにより、『誰にでもやさしいまち ふくしま』の実現を目指すとともに、官民一体となった行動をレガシーのひとつとして次世代へ繋ぐための取り組みを推進。

- ✓ パラスポーツの振興を事業の大きな柱の一つとする「福島市スポーツコミッション（R3.2設立）」を中心として、**ボッチャ交流大会の開催等によるパラスポーツの市民への普及**や、**パラスポーツ競技団体の合宿の受入れ、パラアスリートの小学校への派遣、障がい者スポーツ団体のスポーツ施設優先予約**などに取り組み、共生社会の実現を推進している。

## 成果の要因・工夫のポイント

- ✓ 市の総合計画まちづくり基本ビジョンにおいて、**パラスポーツの振興が主軸に位置づけられた背景に、復興五輪開催都市として市長主導の下、官民一体で、大会のレガシーとなるハードやソフト機能を残していく意識改革**が起点となり、その後のスポーツを活かしたまちづくりや継続的なパラスポーツ振興施策の取組みにつながっている。

- ✓ パラスポーツ振興の推進において「**ボッチャ**」競技に注力。市と競技団体が連携協定を結び、市民大会の実施、オープンスペースを活用したボッチャ体験会などの**広報・普及活動により、活動を支援する体制が整備**されることで、市民のパラスポーツへの理解促進が図られている。

- ✓ コロナ禍の中、新たに設立した「**福島市スポーツコミッション**」では、スポーツコミッションとしては特徴的な「**パラスポーツの振興**」を事業目的の柱の**1つ**に掲げ、積極的にデフスポーツの団体合宿を受け入れている。地域のスポーツ団体や観光団体等のコミッションの構成員と共に、合宿誘致によるパラスポーツの振興のみならず、**地域の活性化につながる取組**となっている。

- ✓ 市の政策により、現在高まっている市民の障害者スポーツ（ボッチャ等）への**関心・機運を高いレベルで持続できるか**が次の課題。継続性と共に、築いた土台が多様な機能を最大発揮するような（**新たな連携や集約化による強化など**）**次の振興方針の早期検討**が必要。

## 今後の課題

- ✓ 一般のスポーツ振興との連携に加えて、**障害者スポーツの振興には、医療、保健や福祉等の多様な要素での調整を要する**が、その観点で庁内横断的に実効性のある連携体制には至っておらず、今後、外部との連携強化と共に、**行政“内部”での一体的な推進にも期待**。

## <福島県福島市>

【人口】275,128人（R5.11月）

【面積】767.72km<sup>2</sup>

【特色】温泉と果物が豊富で、古くは養蚕と阿武隈川の舟運で栄えた城下町。2021年に東京オリンピック野球・ソフトボール競技があづま球場で開催。東京2020オリンピックで海外の関係者から絶賛された名物の桃をはじめ、1年中みずみずしい果物を楽しむことができるフルーツ王国。



市民ボッチャ交流大会を通じた普及活動



県障がい者スポーツ協会の「障がい児・者の運動導入教室」との連携（市施設での用具保管など）



「福島市スポーツコミッション」によるパラスポーツ合宿の誘致活動

### 取組概要

### PFS（成果連動型民間委託契約方式）ヴォルティス元気っずプログラム

- ✓ 徳島ヴォルティス（Jリーグ）及び大塚製薬（株）と連携し、市内の認定こども園及び幼稚園に通う5歳児を対象に、**アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）とボールを使った運動遊びを、徳島ヴォルティスコーチが指導する運動プログラム**を実施。
- ✓ **幼児期に必要とされる多様な動きの獲得や体力・運動能力の向上を目的とした「運動遊び」とともに、体の成長に不可欠な「栄養等の学習」なども通じて、活動的で健康的な生活習慣を習得し、生涯にわたり豊かな人生を送るための基盤づくり**につなげている。
- ✓ ACPを活用し、子供たちが**楽しみながら発達段階に応じて運動あそびに親しめる**メニューになっているとともに、**徳島ヴォルティスのコーチ陣が指導**することで、子供たちがより運動を楽しめる機会となっている。
- ✓ 子供や保護者へのアンケートを実施し、**適切な指標に基づいて成果の把握**を行うことで、事業の改善につなげている。また、子供への効果や保護者からの高い評価は、プログラムを実施する徳島ヴォルティスのコーチにとっても、**より質の高いプログラムを提供するうえでインセンティブ**となっている。
- ✓ 徳島ヴォルティスの**コーチと現場の先生とが上手く連携**しており、互いに理解し尊重し合ってプログラムを実施できているとともに、**保護者のニーズも踏まえたプログラムの提供**につながっている。
- ✓ 集団行動を通じて、子供の体力・運動能力の向上のみならず、**ルールを守れるようになる、社交性が身につくなどの効果にもつながっている**。また、生活リズムや栄養、休養等の情報もまとめたリーフレットを作成して配布し分かりやすく伝えることで、**健康リテラシーを**高めている。
- ✓ 子供や保護者へのアンケートで把握したデータについて、更に詳細な分析を行うとともに、例えば子供の体力向上につながっている等の**エビデンスを活用してプログラムの効果を更に示せると良い**。
- ✓ 親子で参加する教室は、場所や日程の困難さはあるものの、子供のみならず**親子で運動あそびに親しめるプログラムの拡充**にも期待。

### 成果の要因・工夫のポイント

### 今後の課題

### <徳島県美馬市>

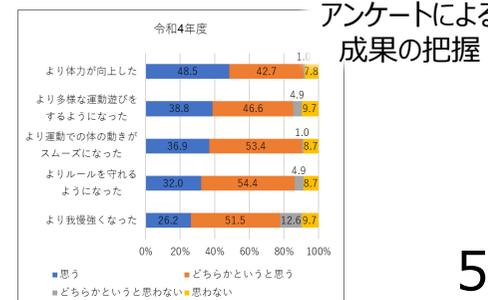
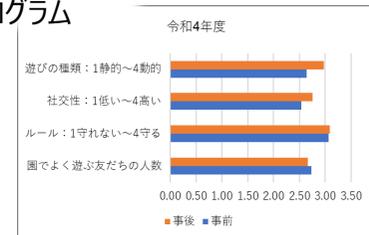
【人口】26,820人（R5年11月）

【面積】367.14km<sup>2</sup>

【特色】平成17年に、脇町、美馬町、穴吹町及び木屋平村が合併して誕生。豊かな自然と歴史情緒あふれるまちである。高齢化率が4割を超える一方で、0～14歳の年少人口の占める割合が1割を下回るなど、急速な少子高齢化が進む中、人生100年時代を迎え、全世代へのコンディショニングの普及や「美」を通じた高齢者の外出支援などの「美と健康のまちづくりプロジェクト」を推進。



ヴォルティス元気っずプログラム



### 美馬市版SIBヴォルティスコンディショニングプログラム

#### 取組概要

- ✓ 姿勢の悪さや慢性的な痛み（肩痛、腰痛等）を感じる20歳以上の市民を対象に、（株）R-bodyのコンディショニングメソッドを習得した徳島ヴォルティスコーチの指導により、1クール9週間にわたって運動プログラムを実施するとともに、栄養補給やICTの活用による活動量の「見える化」を実施。

- ✓ 運動機能の改善を通じて運動習慣の定着化を図り、将来的な医療費や介護給付費の適正化につなげることを目指している。

#### 成果の要因・工夫のポイント

- ✓ （株）R-bodyや大塚製薬（株）と連携して専門的なノウハウを活用し、トップアスリートのコンディショニングの手法を用いることで市民の健康増進につなげている。単なる運動機会の提供ではなく、市民のコンディショニングづくりの一環としてプログラムを実施することにより、腰痛等をはじめ身体に何らかの不調を感じる20歳以上の市民の運動機能の改善につなげているほか、運動習慣の定着も見られるなど、具体的な効果をもたらしている。

- ✓ 現場での指導自体はJリーグクラブの徳島ヴォルティスが行うことで、情報発信において大きな影響力をもたらしており、地域住民への普及に成功している。

- ✓ 有識者の知見も活用して評価指標の設定を行い、データに基づいて成果を継続的に把握している。

- ✓ プログラムを通じて、「美と健康のまち」をかかげる美馬市を市内外にアピールする機会にもなっており、まちづくりにもつながっている。

- ✓ 現在把握しているデータを積み上げていくことで、中長期的には、同プログラムが医療費削減や介護予防などにつながっていることも、効果として示すことができると良い。

#### 今後の課題

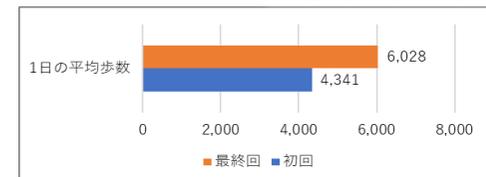
- ✓ 市民のコンディショニングづくりへの意識や知見を更に高めるためのプログラムも検討しており、今後の更なる拡充に期待したい。

#### <徳島県美馬市>

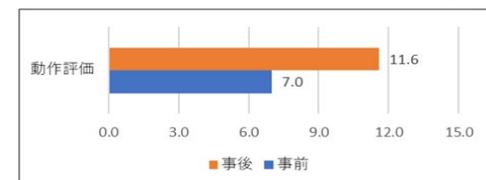
【人口】26,820人（R5年11月）

【面積】367.14km<sup>2</sup>

【特色】平成17年に、脇町、美馬町、穴吹町及び木屋平村が合併して誕生。豊かな自然と歴史情緒あふれるまちである。高齢化率が4割を超える一方で、0～14歳の年少人口の占める割合が1割を下回るなど、急速な少子高齢化が進む中、人生100年時代を迎え、全世代へのコンディショニングの普及や「美」を通じた高齢者の外出支援などの「美と健康のまちづくりプロジェクト」を推進。



#### ICT活用による活動量の「見える化」



S.O.A.P.®スコアの変化

# 3. 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

## 取組概要

- ✓ 横浜ラポールでは、「リハビリテーションサービスの向上」「豊かな人生への支援」「共生社会実現への取組」を基軸としながら、**横浜市内の障害者スポーツ・文化活動の中核拠点施設**として、障害者の多様化するニーズに即した事業（地域資源との連携を強化した取組等）や、障害者のスポーツ・文化活動に関する積極的な情報発信を実施。

スポーツ 振興事業	(1) リハビリテーション・スポーツ	(2) スポーツ・レクリエーション教室、スポーツ大会等	(3) 障害者スポーツを支える人材の育成	(4) 地域支援
	隣接する横浜市総合リハビリテーションセンターと連携し、スポーツを活用した <b>社会参加支援プログラム</b>	プロサッカーチームと連携した知的障害者のサッカー教室、横浜市障害者スポーツ大会（通称：ハマピック）の開催等。	障害者スポーツに関わる <b>人材のすそ野を広げる</b> 体験会や研修会実施。	障害福祉サービス事業所や特別支援学校等への <b>出張指導</b> 等。

## 成果の要因・工夫のポイント

- ✓ 本センターの特徴は、「**リハビリテーション・スポーツ**」に注力しており、スポーツの特性を活かして障害者の社会参画を促進させるため、**隣接のリハビリテーションセンターや市内医療機関とも連携し、回復期におけるスポーツ実施・普及**に取り組んでいる。

- ✓ センター以外でも、**地域の身近な場所でスポーツが楽しめる環境づくり**のため「地域支援事業」（特別支援学校等への出張指導）を実施し、市内小中学校の校長会での施設紹介、特別支援学校の年間スケジュールに施設見学・体験を入れてもらえるよう働きかけなど、**学校との円滑な連携体制を形成**。

- ✓ パラスポーツ指導者養成講習会、地域のスポーツ推進委員やスポーツボランティア等を対象したパラスポーツ研修会の実施などを通じて、地域で**障害者スポーツを支える人材育成のハブ**として貢献。

- ✓ グループではなく個人利用の場合に、**意図的に「仲間づくり」ができるよう働きかけ**しており、教室終了後、自発的にまた利用したいとなりやすいよう指導者・スタッフが**チーム作りや声掛け**をしている。

- ✓ 障害者がスポーツをはじめするための**受け皿となる拠点や人材の不足が課題**であり、市のスポーツ協会等と連携した地域のスポーツ環境整備の取組、より多くの地域のスポーツ施設やスポーツクラブとの連携など、**利用者が自立に向かいやすくなる機能を持つハブ**となることに期待。

## 今後の課題

- ✓ 施設利用者が、**より競技スポーツを志向しやすい環境の整備**に向けて、各競技団体等とのさらなる連携が必要となる（例えば、競技団体側での育成機能の拡充等）。

## <障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール>

【設立】 1992年8月

【所在地】 神奈川県横浜市

【目的等】スポーツ、文化活動、レクリエーション活動を通じて、障害者の社会参加及び福祉の増進並びに障害者、その介護人その他の市民相互の交流を図るために設置。障害者、介護人、未就学児は原則利用無料。開館日数は年間345日。令和4年度の利用者数は約25万人（1日平均約700人）。

健康づくりのためのウェルネスプログラム（知的・発達）の様子



障害福祉サービス事業所への出張指導（地域支援）



障害者の文化活動の支援（アートワークショップ等）や、情報提供・相談事業（聴覚障害）も実施

2

## ガイドブックについて

## 本日御議論いただきたい事項

- ✓ 委員からの御意見を踏まえたガイドブックの変更点
- ✓ ガイドブックのフォーマット修正案
- ✓ ガイドブックの骨子案
- ✓ ガイドブックの「具体的なアクションガイド」のコラム案

## 今後の検討事項

- ✓ ガイドブックのブラッシュアップ
- ✓ ガイドブックの普及方法・広報ツールの検討 等

## 【フォーマット】

- ①取組事例の「成果の要因・工夫のポイント」において、なるべく見て欲しいポイントを記載。
- ②フォーマットに新たに「取組を開始・継続できたポイント」を追加。
- ③財源・財政規模は報告書詳細版で、事業の位置づけは「取組概要」で可能な範囲で記載し、参照頂く。
- ④エビデンスを含め、執筆担当委員から助言・修正を頂くとともに、執筆要領で執筆上の留意点として記載。

## 【タイトル】

- ⑤「Sport in Lifeガイドブック」とし、サブタイトルは有無の御意見を含め委員から募集。

## 【目次】

- ⑥特に見ていただきたい活用主体が一目で分かるよう工夫する。

## 【コラム】

- ⑦「ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツの推進について」を掲載する。

## 【項目の追加】

- ⑧共通する課題解決方法について、新た「終わりに」などに追加し、委員に御執筆頂く。

## 【参考資料】

- ⑨報告書の詳細版の「推進体制・担当者」の中で、可能な限り体制図や担当部署等を記載。
- ⑩関連データを掲載する。
- ⑪発信媒体に応じてQRコードやURLを掲載する。（※掲載箇所については要検討。）
- ⑫キーワードをまとめて索引として付す（用語集を作成する）ことを検討する。

## (参考) 委員からの御意見と変更点の対応関係①

- 活用する対象が課題をどのように克服すれば良いか分かるよう、当該事例がどのような入り口で始めたのか、どのように当たり前事化したかなどの内容を入れて、入口にポイントがあったのか、継続のコツなのか、見て欲しい観点があると分かりやすい。  
→③財源・財政規模は報告書詳細版で、事業の位置づけは「取組概要」で可能な範囲で記載し、参照頂く。  
②フォーマットに新たに「取組を開始・継続できたポイント」を追加し、委員に御執筆頂く。
- 関係者などのマップのような図を付けることも一案。  
→⑨参考資料の報告書の詳細版の「推進体制・担当者」の中で、可能な限り体制図や担当部署等を記載する。
- 財源及び財政規模や、事業の位置づけ（自治体のプロジェクトの一環等）が分かるような記載も検討頂きたい。  
→③財源・財政規模は報告書詳細版で、事業の位置づけは「取組概要」で可能な範囲で記載し、参照頂く。
- 自治体や保険者・医療機関等が活用しやすいよう、参考資料などで、スポーツ実施率やスポーツが健康にもたらす効果のエビデンス（うつ予防等）など、スポーツの推進に当たって使えるデータがあると良い。  
→⑩参考資料で関連データを掲載する。
- 事例で大きく共通する課題として、①規模が限定的、②助成金が前提、③キーパーソンの存在、が挙げられる。これらをクリアできた要素を類型化して提示し、共通する課題解決方法が示せるような専用のページやフォーマットも検討するとよい。  
→②フォーマットに新たに「取組を開始・継続できたポイント」を追加し、委員に御執筆頂く。  
⑧共通する課題解決方法について、新たにコラムや「終わりに」などに追加し、委員に御執筆頂く。
- 足立区の例は図書館の取組だと分かりづらいので、実施主体を明示するなどし、具体的な記述をしてはどうか。  
→④主体の明示を含め、執筆担当委員から助言や修正を頂くとともに、執筆要領で執筆上の留意点として記載する。
- タイトルは、文字がなるべく少ない方が良いので、「Sport in Lifeガイドブック」ではどうか。「ライフパフォーマンス」というワードをSport in Lifeと結び付けて示すことは馴染むと考えるので、「ライフパフォーマンス」というワードを入れることも一案。  
→⑤タイトルは「Sport in Lifeガイドブック」とし、サブタイトルは有無の御意見を含め委員から募集する。
- 紙媒体・電子媒体に応じて、QRコードやURLをなるべく掲載するとよい。  
→⑪発信媒体に応じてQRコードやURLを掲載する。
- ライフパフォーマンスの認知度を高めるチャンスだと思うので、スポーツ庁としてもぜひ発信するとよい。  
→⑦コラムで「ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツの推進について」を掲載する。

## (参考) 委員からの御意見と変更点の対応関係②

- フォーマットに財政規模が出るとよい。  
→③財源・財政規模は報告書詳細版で、事業の位置づけは「取組概要」で可能な範囲で記載し、参照頂く。
- タイトルは「Sport in Lifeガイドブック」と簡潔にし、サブタイトルで「〇〇の実現に向けて」などをつけてはどうか。  
→⑤タイトルは「Sport in Lifeガイドブック」とし、サブタイトルは有無の御意見を含め委員から募集する。
- 「Sport in Life」というワードが浸透しているわけではない中、自治体や企業など活用する側への伝わり方も考え、活用ターゲット別のものを作成することも一案。フォーマットは受け手目線で、見出しも活用ターゲットにしっかり響くものが良い。  
→⑥目次の中で、特に見ていただきたい活用主体が一目で分かるよう工夫する。
- マップという形は難しいかもしれないが、検索ワードをまとめるなどの工夫はあってよい。  
→⑫参考資料でキーワードをまとめて索引として付すことを検討する。
- 重点的に発信したいポイントを示し、みんなで課題解決に取り組んでいこうというメッセージになることが重要。  
→②フォーマットに新たに「取組を開始・継続できたポイント」を追加し、委員に御執筆頂く。
- 事例を見て照会したい場合の所管、担当部署を記載いただくとスムーズにつなぐことができる。  
→⑨参考資料の報告書の詳細版の「推進体制・担当者」の中で、可能な限り体制図や担当部署等を記載する。
- ステージごとに表出した課題をどのように解決したか見せるとともに、成果を獲得する過程におけるエビデンスの話も重要。  
→④エビデンスを含め、執筆担当委員から助言や修正を頂くとともに、執筆要領で執筆上の留意点として記載する。
- 事業規模を示すための取組体制もあるとよい。  
→⑨参考資料の報告書の詳細版の「推進体制・担当者」の中で、可能な限り体制図や担当部署等を記載する。
- 事業規模が限定的、補助金への依存、キーパーソンが存在という課題に対する解決方法や、継続のノウハウ、限られた資源の活用方法について、どのように示すことができるか検討。  
→③自治体の視察先の基本情報の箇所で、可能な範囲で財源・財政規模や事業の位置づけも記載する。  
⑧共通する課題解決方法について、新たにコラムや「終わりに」などに追加し、委員に御執筆頂く。
- 用語集など参考資料に追加したらどうか。例えば、電子媒体では、色付けされた用語にカーソルを合わせると説明が表示されるなど工夫してはどうか。  
→⑫キーワードをまとめて索引として付す（用語集を作成する）ことを検討する。
- ガイドブックの見出し（企業名や自治体名）横に、企業や自治体のHPにリンクするQRコードを貼り付けてはどうか。  
→⑪発信媒体に応じてQRコードやURLを掲載する。（掲載箇所については要検討。）

# (フォーマット修正案)

## ターゲット 見出し

- 地方公共団体 
- 民間事業者 
- スポーツ関係団体 
- 保険者・医療機関等 

「目標」及び「課題」は重複するため、各ターゲットの序文で記載し、フォーマットからは削除。

特に参照頂きたい対象（2～3目安）を記載し、凡例・アイコン等を想定。委員に御確認頂く。  
※目次の中でも、特に見ていただきたい活用主体が一目で分かるよう工夫する。（⑥）

具体的な取組内容について、委員に御執筆頂く。  
※執筆要領の中で、エビデンスや見て欲しい観点の明示などを留意点として記載する。（④）

具体的な取組

- ① ~~~~~~に取り組む。
- ② ~~~~~~の工夫を行う。
- ③ ~~~~~~との連携を行う。

取組を開始・継続できたポイント

委員の御意見を踏まえ、「取組を開始・継続できたポイント」欄を追加し、委員に御執筆頂く。（②）

(参考) 第3期スポーツ基本計画の記載

- ✓ ~~~~~~を目指す。
- [具体的施策]
- 国は、~~~~~。
- 地方公共団体は、~~~~~。

第3期スポーツ基本計画における該当箇所を、参考として抜粋し、委員に御確認頂く。



# ① 他分野との連携と行動変容のエビデンスを活用した女性のスポーツ参画促進

- ① スポーツが**他分野と連携**することで、**スポーツに無関心な女性でもスポーツに親しめる工夫**を行い、地方公共団体の行政内部においても、スポーツ分野と**他分野が連携してスポーツ施策に取り組む**。
- ② スポーツ施設以外の公共施設（図書館等）を活用し、日頃運動・スポーツの習慣がない女性でも参画しやすいよう、**スポーツ実施のハードルを下げる工夫**を行う。
- ③ 地方公共団体と研究機関等が連携し、**行動変容を促すためのエビデンスの蓄積や効果・検証を行う**とともに、スポーツ無関心層やスポーツを継続する層など、**行動ステージに応じた施策**に取り組む。

- ✓ 地方自治体内部において、**スポーツ部局と文化・生涯学習等の他部局が横断的に施策を進めている**。
- ✓ **研究機関と連携**することで、**エビデンスの活用を効果的に行っている**。

- ✓ 隙間時間等に気軽にスポーツに取り組める環境づくりの推進や、従業員の健康づくりにスポーツを活用する民間事業者に対する支援等により、働く世代・子育て世代のスポーツ実施率向上を目指す。
- ✓ 女性のニーズや健康課題の解決が見込まれるスポーツについて普及啓発を行うとともに、環境整備を促進し、女性のスポーツ実施率の向上を目指す。  
【(1) 多様な主体におけるスポーツの機会創出】

## [具体的施策]

- 国は、地方公共団体や民間事業者等に対し、女性がスポーツを実施する意欲を向上させるための取組や女性のスポーツと健康との関係、女性がスポーツをしやすい環境の整備について、地域のスポーツクラブや研究機関、医療機関等の関係団体間で情報を共有、連携して普及啓発や環境整備等を行えるよう支援する。
- 国は、働く世代・子育て世代に対して、通勤時間や休憩時間等を活用して、今までよりもプラス10分の運動習慣づくりを促す。
- ✓ 女性のニーズや健康課題の解決が見込まれるスポーツ実施について、個人や関係団体への普及啓発を行うとともに、女性がスポーツをしやすい環境整備等を促進し、女性のスポーツ実施率を向上させる。  
【(8) スポーツを通じた共生社会の実現】

※委員執筆

具体的な取組

※委員執筆

取組を開始・継続できたポイント

(参考) 第3期 スポーツ基本計画の記載



# 見出し

事例に応じた具体的な見出しを設定。

第3期スポーツ基本計画の目標を簡潔に記載。

特に参照頂きたい対象を記載

目標
課題
具体的な取組
(参考) 第3期スポーツ基本計画の記載

~~~~~の向上

第3期スポーツ基本計画に記載している[現状]をベースとして記載。

- ~~~~~の傾向がある。
- また、~~~~~という課題がある。

- ① ~~~~~の施策に取り組む。
- ② ~~~~~の工夫を行う。
- ③ ~~~~~との連携を行う。

1つの事例から導かれる具体的な取組について、**詳細**に記載。  
※委員による執筆を想定。

- ✓ ~~~~~を目指す。  
[具体的施策]
- 国は、~~~~~。
- 地方公共団体は、~~~~~。

第3期スポーツ基本計画における**該当箇所**を、**参考**として抜粋。  
※取組事例が該当する記載を**網羅的に抜粋**する。

次ページで、**1事例**具体的な取組事例として掲載



### 〇〇〇〇〇〇の取組

※詳細：p〇

#### 取組概要

- ✓ ~~~~~を実施。
- ✓ ~~~~~に取り組む。

可能な範囲で事業の位置づけも記載。(③)

#### 成果の要因・工夫のポイント

- ✓ ~~~~~ができている。
- ✓ ~~~~~に取り組めている。
- ✓ ~~~~~が可能となっている。

なるべく見て欲しいポイントを記載。(①)

#### 今後の課題

- ✓ ~~~~~は今後の課題。

#### 委員所見

- ~~~~~。(〇〇委員)
- ~~~~~。(〇〇委員)

<〇〇県〇〇市>  
 【人口】〇〇人  
 【面積】〇〇 km<sup>2</sup>  
 【特色】~~~~~。

取組の写真

取組の写真

取組の写真

## ガイドブックの名称

**Sport in Lifeガイドブック** ※サブタイトルは追って検討。

## ガイドブック骨子（現時点版）

|                 |                                                                                                                            |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. はじめに         | ・ガイドブックの趣旨                                                                                                                 |
| 2. ガイドブックの見方    | ・地方公共団体、民間事業者、スポーツ関係団体、保険者・医療機関等の対象毎の見方について                                                                                |
| 3. 具体的なアクションガイド | ・ターゲット毎の導入パート<br>・視察・ヒアリングを踏まえた具体的な取組／取組を開始・継続できたポイント 等<br>・視察・ヒアリング先の取組事例<br>・コラム                                         |
| 4. 終わりに         | ・現場視察・ヒアリングを踏まえた成果や課題<br>・共通する課題解決方法に関する考察<br>・健康スポーツ部会委員からのメッセージ 等                                                        |
| 5. 参考資料         | ・現場視察・ヒアリング報告書詳細版<br>・第3期スポーツ基本計画との対応表<br>・参考ページのQRコード・URL<br>・索引（キーワード・用語集）<br>・関連データ（スポーツ実施率等）<br>・スポーツ審議会健康スポーツ部会委員名簿 等 |

## Ⅱ. 女性

- 地方公共団体 
- 民間事業者 
- スポーツ関係団体 
- 保険者・医療機関等 

- **女性のスポーツ実施率は男性に比べて低く**、若年女性については、スポーツの好き嫌い等の理由により、スポーツ実施時間が短い傾向があります。
- また、女性については、運動不足や極端な痩せに伴う骨粗しょう症や妊娠中・産後の心身の健康悪化等の**健康課題が顕在化**しています。
- こうしたことから、**女性のニーズや健康課題の解決が見込まれるスポーツ実施**について、個人や関係団体への普及啓発を行うとともに、女性がスポーツをしやすい環境整備等を促進し、**女性のスポーツ実施率を向上させる**ことが重要です。

### 掲載内容

|                                         |             |                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 他分野との連携と行動変容のエビデンスを活用した女性のスポーツ参画促進    | 東京都足立区      |   |
| ② 中高年の女性を対象としたエビデンスに基づくスポーツプログラムと医療との連携 | (株)カーブスジャパン |   |
| ③ 幅広い世代の女性のニーズに応じたダンスフィットネスプログラムの提供     | コナミスポーツ(株)  |   |
| 【コラム】妊産婦の女性を対象とした「ママもまんなかプロジェクト」        |             |   |

|                             |                                                |
|-----------------------------|------------------------------------------------|
| <b>I. 子供<br/>(幼児)</b>       | ○アクティブ・チャイルド・プログラムについて                         |
| <b>II. 女性</b>               | ○妊産婦の女性を対象とした「ママもまんなかプロジェクト」について               |
| <b>III. 働く世代・<br/>子育て世代</b> | ○厚生労働省「健康づくりのための身体活動基準・身体活動指針」について             |
| <b>IV. 高齢者</b>              | ○「運動・スポーツ関連資源マップ」について                          |
| <b>V. 障害者</b>               | ○障害者差別解消法について<br>○スポーツ施設のユニバーサルデザイン化ガイドブックについて |
| <b>VI. 多様な<br/>主体</b>       | ○「ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツ」について          |

# (参考) 「具体的なアクションガイド」目次 (現時点版)

|                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| <b>I. 子供<br/>(幼児)</b>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>① まちづくりの推進における外部連携による幼児の運動習慣化</li> <li>② プロスポーツチームと連携したアクティブ・チャイルド・プログラムの取組</li> <li>③ 親子や地域住民がいつでも、誰でも、どこでもスポーツに親しめる環境の整備</li> <li>④ 地域資源を活用した子供のあそび場づくりと交流機会の創出</li> </ul>                                                                                | コラム |
| <b>II. 女性</b>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 他分野との連携と行動変容のエビデンスを活用した女性のスポーツ参画促進</li> <li>② 中高年の女性を対象としたエビデンスに基づくスポーツプログラムと医療との連携</li> <li>③ 幅広い世代の女性のニーズに応じたダンスフィットネスプログラムの提供</li> </ul>                                                                                                               | コラム |
| <b>III. 働く世代・<br/>子育て世代</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域の医科学センターにおけるアスリートの知見を活用した住民の健康増進</li> <li>② 産業連携組織におけるスポーツを通じた健康経営</li> <li>③ スポーツ関係企業におけるアプリ等を活用した従業員の健康増進</li> <li>④ 社内における就業時間中の運動・スポーツプログラム</li> <li>⑤ 健診センターとの連携によるスポーツ及び健康づくりプログラムの提供</li> </ul>                                                  | コラム |
| <b>IV. 高齢者</b>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>① キッズ健幸アンバサダーの養成とスポーツを通じた住民の健康づくり</li> <li>② 医師会との連携による脳と身体の健康づくり</li> <li>③ ウォーキング及び運動グループの形成を通じた住民のフレイル予防</li> <li>④ 頭と身体の健康づくりによる運動・スポーツを通じた認知症予防</li> <li>⑤ スポーツクラブにおけるリハビリテーションプログラムの提供</li> <li>⑥ スポーツ競技を通じた健康増進とデータを活用した競技振興</li> </ul>              | コラム |
| <b>V. 障害者</b>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域の障害者スポーツ振興のハブ機能を担うセンターの運営</li> <li>② 行政とスポーツ団体の連携による障害者スポーツに力を入れたまちづくりの推進</li> <li>③ 企業における障害者スポーツの普及支援と地域活性化</li> <li>④ 企業におけるインクルーシブルな競技大会を通じた共生社会の推進</li> <li>⑤ スポーツクラブにおける障がい児のスポーツ実施環境整備</li> </ul>                                                | コラム |
| <b>VI. 多様な<br/>主体</b>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 図書館における運動・スポーツの取組を通じた住民の健康づくり</li> <li>② 行政内部における研究機関の設置を通じた身体活動に関するエビデンス構築</li> <li>③ 多様な主体が無料で気軽に参加できる全国規模の定例ウォーキングイベント</li> <li>④ ルールの工夫を通じた多様な主体がともにするスポーツの実現</li> <li>⑤ 健康都市宣言によるスマートウェルネスシティの実現</li> <li>⑥ スポーツ団体や企業と連携した市民のコンディショニングづくり</li> </ul> | コラム |

**1月中旬以降順次** 「具体的なアクションガイド」及び「取組事例」執筆作業開始  
※事務局によるベース案の作成 → 委員の執筆及び確認  
→視察先による確認 → 集約版照会 の流れ  
※ターゲット別に順次事務局より依頼。

## **2月6日（火） 第25回健康スポーツ部会**

**2月中旬頃** 現場視察・ヒアリング終了（残り2件を予定）

**2月下旬頃～** 「コラム」、「終わりに」執筆作業

**3月上旬** タイトルの確定  
参考資料の作成作業  
委員及び視察・ヒアリング先による全体版の最終確認

## **3月27日（水） 第26回健康スポーツ部会**

・ガイドブック案

**3月中** ガイドブック公表